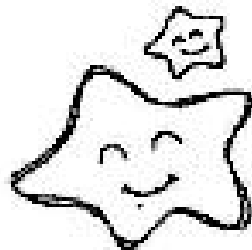


QSK

にぬふあぶし

No.233

ね  
子の方向の星



ふれあいプラザ宮古恒例行事  
**ランチの会**

月に一度、ふれあいプラザ宮古ではランチの会と称し、利用者の方達と職員と一緒に昼食を作って食べるという行事があります。

そして、今回のランチの会では焼きそばを作りました。料理慣れしている方や普段あまり料理をやらない方も一緒に協力しあい、焼きそばを作りました。

料理中は主に料理に慣れている方が表立って指揮をしてくれ、あまり慣れていない方を手伝ったり、教えたり、指示をだしたりなど互いに助け合いながら料理に取り組む利用者達の光景は、見ている職員を微笑ましい気分させてくれます。

食事の時は、おかわりする方も続出し、皆さん「おいしかった」と大満足の様子。やっぱり、みんなで料理し、食卓を囲むというのは楽しいですね。

食べ終わる頃には皆さん今度は何を作ろうかと、もう来月のランチの会の相談が始まっていました。毎月たくさんの方が参加してくれ、大変人気の行事となっています。



上手く切れるかな～

まずは味噌汁から



## 精神障がい者にも福祉医療を

子どもの貧困問題がクローズアップされています。これは社会的格差の問題です。関連することですが、県の「福祉医療制度(心身障害者医療費助成事業、重度心身障害老人等医療費助成事業)」は身体・知的障がい者が対象で、精神障がい者には適用されていません。

そのため、精神障がい者は、精神科の自立支援医療以外の一般医療費は、自己負担3割です。他の2障害(身体・知的)と同様の福祉医療を求める取組みが、全国的にも大きな課題に上っています。

「精神障がい者の福祉医療実現」により、他の2障害よりも経済的に困窮し、医療費の負担による家計の圧迫・生活状況を少しでも改善・向上させることができれば、と思います。多くのばあい、家族の経済力によって支えられる精神障がい者の生活実態ですが、その家族の平均年齢も70歳を超えています。

地域生活ではただでさえ経済的な制約がありますが、大きな負担の医療費による暮らしへの圧迫は厳しく、将来の不安についても、経済的な問題は重く影響します。

県全体では約5万人が精神科を受診しています。家族に気兼ねすることなく安心して医療が受けられるよう、社会全体で支え合える社会連帯の福祉医療制度の実現にむけ、英知を結集しましょう。

まず、精神障がい者の暮らしぶり(収入、就労、通院、入院等)に関して、アンケート調査等をとおして把握し、県と市町村にも協力を求める要望を取りまとめ、関係支援団体などと共に、訴えていくことから始めませんか？

沖福連では、6月17日に今年度の定例総会を予定しています。地域家族会にあって、総会での意見交換、情報交換などの準備をお願いいたします。

事務局：高橋年男

**医療費助成早期実現を**  
精神障害者ら 奈良で緊急集会

精神障害者の早期の助成実現を求める集会の参加者「県文化会館」

精神障害者の医療費 対し、市町村と費用を  
自己負担への助成の 折半する形で2014  
早期実現を求める緊急 年度当初予算に1億6  
集会が27日、奈良市登 000万円を計上し、  
大路町の県文化会館で 10月開始を予定してい  
開かれた。約300人 た。しかし、県市長会  
が参加した。 (12市)は対象を1級  
助成は、県が精神障 保持者からとし、10月  
害者健康福祉手帳の 開始は間に合わないとい  
1、2級保持者(計約 県に伝えた。一方、ほ  
7200人見込み)に とんどの町村は1、2

級保持者を対象に10月  
から始める見込み。精  
神障害者の福祉医療を  
実現する県会議」の橋本  
一弥共同代表は「1、  
3級で福祉医療実現を  
求めてきたのは生活実  
態に差がないから」と  
理解を求めた。同じく  
奥田和男さんは「約10  
年間断えて、県議会で  
予算化していただいた  
時は小躍りして喜ん  
だ。残念なことに市で  
対象者抑制の動きがあ  
り、生活実態をみた制  
度づくりを実現させたい」と話した。各市の  
9月議会で取り上げら  
れるよう、議員に働き  
かける。【松本博子】

毎日新聞 14(H26).8.28

【新聞記事：奈良県では10年越しの取組みで、福祉医療制度を実現】

## 沖縄市地域活動支援センターおきなわ便り

支援センターおきなわでは、日中活動にこんな活動を行っています。

### ボランティア

毎月1回、沖縄こどもの国内にて、ボランティア活動をしています。内容は園内で販売されている鯉のえさを詰める作業や、こどもの国にて行われるたくさんのイベントに使う材料作り(シール切、スタンプ台紙づくり)など様々な活動を約2時間行っています。

この活動は10年程続いており、こどもの国から感謝状を頂きました。



### 愛さん会(園芸活動)

毎月1回、支援センターおきなわの事務所がある沖縄市福祉文化プラザ周辺の園芸作業を行っています。愛さん会への参加はおきなわ利用者、家族会、福祉プラザ施設長などで、出来る限りですが行っています。年に2回、沖縄市役所より苗を頂く機会があり、その苗をプラザ周辺に植え、通行の方々やプラザを利用する方のオアシスになっています。お散歩中の地域の方に声を掛けていただいたりすることもあり、ここから交流が生まれる事もあります。

### 創作活動

毎月1回、モノ作りをしています。その都度、利用している方々とどういったモノを作りたいかなど話をしながら行っております。

最近では、毛糸を使ったボンボン&マスコットや、新年の抱負を書き初めしたり、大きな展示会があるときは合同で作品を作ったりなど楽しみながら行っています。

また、ちぎり絵の先生をお招きして、和紙を使った本格的な作品作りを行うこともあり、参加者は毎回楽しみにしていただいています。

☆支援センターおきなわでは日中の行き場所としての“憩いの場”利用以外に、上記の活動やその他いろいろな活動を行いながら、日々の生活の質の向上を目標にしています。これからもたくさんの方と活動して行きたいと思っております。

## てるしの農園、35 cmのゴーヤを収穫

4月の下旬に、てるしの農園ではジャガイモの収穫をした後に、ゴーヤを植え付けました。固くなった土を耕し、肥料も施して、ゴールデン・ウィークの間も水やりを欠かさず、大事に育ててきたゴーヤです。5月30日に初めての収穫をしました。

長さ35 cm、重さ530 g。市場に並んでいるものにも、引けを取らない立派なゴーヤです。

猫の額ほどの小さな「てるしの農園」、3坪ぐらいはあるでしょうか？写真のように、収穫を待つゴーヤが所狭しと、ぶら下がっています。

また地面には、ナーベラ（へちまの沖縄名）の葉が生い茂り、実をつけ、太陽の恵みをいっぱいを受けて、大きくなり始めています。こちらも農薬を使わずに育ててきました。後10日もすれば、農連市場に出荷できるほどに成長すること、請け合いです。

天気予報では、今年は、台風の当たり年だそうですが、ゴーヤ収穫が終わるまでは、台風が来ないことを祈るばかりです。

てるしの弁当には、この無農薬のてるしの野菜が大活躍です。



問い合わせ：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会（てるしのワークセンター内）

TEL:098-889-4011

FAX:098-888-5655

### 編集後記

梅雨に入り、天気が不安定な日が続いています。

晴天かと思いきや急に雨になったりと、先日、今日は雨が降らないとたかをくくって朝洗濯物を干したら、午後から急に天気が悪くなり、雨に降られ、大慌てで洗濯物を取り込みました。

皆さんも洗濯物を干すときは気をつけてください(笑) (S)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 島田 正博

〒901-1104 沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1  
てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-16-1

毎日福岡会館 7F

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)